

ざきみ  
座喜味城



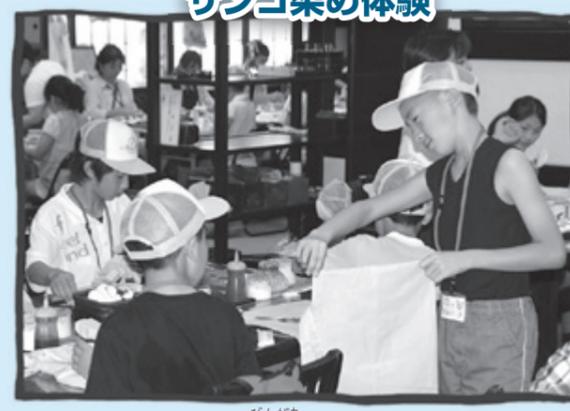
幾重にもめぐらされた石垣の間を風が吹き渡ります。城跡をガイドの知花さんと歩きました

平和祈念公園



沖縄戦の悲惨さと人々の悲しみを知りました。「ふくしまの塔」に献花し黙祷を捧げます

サンゴ染め体験



「首里 琉染」という紅型染めの工房で。サンゴに布をかざせ絵の具でこすって模様を描きます

首里城



最初に訪れたのは琉球王朝の面影を残す首里城。降り注ぐ夏の日差しの下でまずは記念撮影を

特集 ● 沖縄までの旅

離れてしまった友達や、知り合ったばかりのスタッフと沖縄までやって来た子どもたち。初めは係の仕事をうまくこなせなかったり素早い集合ができなかったり。小さなさかいで互いを責めてしまおうようなこともたくさんあったようです。

それでも、毎夜の「まとめの時間」で二つひとつを反省し目標を話し合ううちに、「この旅をよい旅にしよう」「今日よりよいチームになろう」という気持ちは、日に日に高まっていきました。事前研修では遠慮がちな相手とも、いつの間にか心から笑い合えるようになっていきました。

最終日の朝。時間前に集合し人数を確認。指示には「はい」と大きな返事。帽子を取り大きな声であいさつする姿は、見違えるほどたくましく輝いていました。

特集 ● 沖縄までの旅

この旅では、西美香さん(上飯樋)、高野江美さん(前田・八和木)、松下結衣さん(草野)と飯樋小学校の菅野百合子先生、支援職員の町井栄元さん(茂木町)と関口由啓さん(高崎市)、村職員の菅野彩さんが、子どもたちと寝起きし班のリーダーを務めました。

消灯後のミーティングでは、リーダーから素敵なエピソードがいくつも語られました。例えば三夜目。「海水浴の前日に作ったてる坊主。子どもたちはお礼の手紙を添えてホテルに残していました」と松下さん。感謝を自ら表した子どもたちの行動に感激したと涙ぐみました。子どもたちの成長はリーダーの誠実な姿勢に支えられていました。人と人がつながり感謝し合う体験も、この旅の大きな財産となりました。



石井颯汰さん  
ぼくが作ったサンゴ染めの写真がお店に飾られることになりました！「首里 琉染にて」



佐藤由美さん  
ガマの中でお母さんが赤ちゃんの口を抑えていたのが見ていらなかった。「平和祈念公園資料館にて」



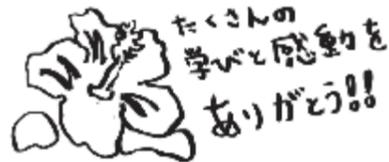
佐藤睦さん  
千ピリガマの中へは行かない方を選んだ。僕はこの場所をけがしてはいけないと感じたから「千ピリガマの入り口へ」



海邊光里さん  
ガマ(の中)に残る生活用品)の中に、おはじきがあったの「集団自決した人の中に多くの幼い子どもがいたことを聞いて」



海部勇斗さん  
歓迎がありがとらにげいました。沖縄で学んだことを飯館村の人に伝えたいと思います「読谷村との交流会あいさつで」



棒術やエイサーを披露してくれた読谷村の子どもたちと「五色綱引き」やバーベキューを楽しみました



読谷村との交流

海と砂浜を満喫！泳いだり、サンゴや貝殻を拾ったり。水泳帽で魚を捕まえた人もいましたよ



ざんば  
残波ビーチで海水浴

ガイドの北上田源さんが、基地がこの町にある理由や地域の皆さんの気持ちを教えてくださいました



道の駅かてな

ショーで大ジャンプやダンスを見せてくれたイルカたちに、プールの前で水しぶきをかけてもらいました



ちゅ  
美ら海水族館